

誰かを想うこと、何かを願うこと、そんなことをかたちにした8作品です。

世界がこうだったらいいのに・・・と心の中で呟いたことを、現実のように描くことは、映画の得意分野です。そして、映画の世界で最も大切にされているのは、多様性。人はみんな違って、人はみんなそれぞれに魅力的。このことを繰り返し映画では描きます。そんな映画のマジックにたっぷり浸っていただきたい3日間が、「ミューズ シネマ・セレクション 世界が目にする日本映画たち」です。日本のみならず海外でも人気の高い日本映画を紹介して17回を迎える本年は、毎回、上映とゲストトークとあわせてお楽しみいただきます。是非、友人、知人、ご家族お誘いあわせてお越し下さい。

※全上映回でゲスト来場を予定。
上映後、ゲストによるトークショー&サイン会を開催します。

【タイムテーブル】
2017年3月

* 開場は、上映開始の15分前です。

18日(土) ●13:30～ 『無伴奏』 132分 矢崎仁司監督来場予定	●17:00～ 『湯を沸かすほどの熱い愛』 125分 中野量太監督来場予定
●11:00～ 『恋人たち』 140分 橋口亮輔監督来場予定	●14:45～ 『団地』 103分 阪本順治監督来場予定
●11:00～ 『FAKE』 109分 森 達也監督来場予定	●14:15～ 『グッド・ストライプス』 119分 岨手由貴子監督来場予定
	●17:45～ 『淵に立つ』 119分 深田晃司監督来場予定
	●17:30～ 『オーバー・フェンス』 112分 ゲスト来場予定

チケット発売日:
2016年12月23日(金・祝)

【料金】全席指定
▲1回券(日時指定):[Pコード:556-319]800円
▲1日券(日にも指定・限定160席・前売りのみ):[Pコード:556-320]
18日:1,300円 19日、20日:2,000円
[Lコード:31577](各回・1日券 共通)

【お求め先】
ミューズチケットカウンター 04-2998-7777 (電話 10:00～18:00 窓口 10:00～19:00)
チケットぴあ 0570-02-9999
ローソンチケット 0570-000-407 (10:00～20:00)

【協力】
アーケンタインメント株式会社、株式会社エレファントハウス
株式会社キノフィルムズ、株式会社クロックワークス
松竹プロダクション株式会社、東京テアトル株式会社
合同会社東風、株式会社ファントム・フィルム

【企画制作】ぴあ株式会社 PFF事務局

【会場】
所沢市民文化センター
ミューズ マーキーホール
〒359-0042 埼玉県所沢市並木1-9-1

※区域「前方」「中央」「後方」「ハルコニー」「2階席」のいずれかを選んでご購入いただけます。
※1日券は「中央」「後方」のみとなります。
※ミューズチケットカウンターでご購入の場合、直接座席を指定することができます。
※開場は各上映開始時刻の15分前からとなります。
※上映後は映写機チェックのため、いったんロビーにご退場いただきます。
※前売券は開催前日まで販売しております。尚、チケットぴあでの前売券予約は開催4日前までとなります。

【主催・お問い合わせ先】
公益財団法人 所沢市文化振興事業団
04-2998-6500 〒359-0042 埼玉県所沢市並木1-9-1
http://www.muse-tokorozawa.or.jp

●未就学児の入場はご遠慮いただいております。
●やむを得ない事情により、ゲスト・プログラム等変更になることがございます。ご了承ください。
●上映開始後は場内が暗くなるため、お手持ちのチケットの座席のご案内でなくなりますので、上映開始時刻に遅れないようご注意ください。



西武新宿線・航空公園駅東口より
徒歩約10分・バス約3分

【航空公園駅まで】
■西武新宿駅より約40分 ■西武池袋駅より約30分(所沢駅乗り換え)
■国分寺駅より約20分(東村山駅乗り換え) ■本川越駅より約20分
[注意事項]駐車場は大変混雑いたしますので、電車・バスのご利用をお勧めします。

★第17回★ ミューズ シネマ・セレクション

世界が目にする日本映画たち

所沢市民文化センター ミューズ マーキーホール

2017年3月18日(土)

『無伴奏』監督:矢崎仁司

『湯を沸かすほどの熱い愛』監督:中野量太

19日(日)

『恋人たち』監督:橋口亮輔

『団地』監督:阪本順治

『淵に立つ』監督:深田晃司

20日(月・祝)

『FAKE』監督:森 達也

『グッド・ストライプス』監督:岨手由貴子

『オーバー・フェンス』監督:山下敦弘

全上映回でゲスト来場を予定。
上映後、ゲストによるトークショー&サイン会を開催します。
ツイッター、フェイスブック、公式HPで詳細を発表します。

@muse_cinema musecinema

所沢ミューズ 検索 http://www.muse-tokorozawa.or.jp

※やむを得ない事情により、ゲスト・プログラム等変更になることがございます。ご了承ください。

3月18日(土)13:30～

『無伴奏』(カラー／132分)

監督:矢崎仁司 原作:小池真理子『無伴奏』(新潮文庫刊、集英社文庫刊)
出演:成海璃子、池松壮亮、斎藤 工、遠藤新菜、藤田朋子、光石 研

1969年の仙台。制服廃止を訴えて学園闘争の真似ごとをしつつも心のどこかに空虚感を抱えている女子高生の響子は、バロック喫茶「無伴奏」で大学生の男女3人と知り合う。そのひとり、渉と恋人同士になるのだが…。多感な時代を精一杯に背伸びして生きる姿が、眩しくも、懐かしく、せつない。原作は小池真理子の半自叙伝的小説。



©2015「無伴奏」製作委員会

矢崎仁司
(やざき・ひとし)

山梨県生まれ。日本大学芸術学部在学中に『風たちの午後』(80年)で監督デビュー。以後、『三月のライオン』(92年)、『スイートトリス』(10年)などを手掛ける。

『無伴奏』は、政治的な色合いの濃い時代を背景に、恋愛や裏切りや反抗といった個人的な感傷を描き出すことに成功している。難しい時代を美しい思い出で覆うのではなく、登場人物の人生とともに時代の波を描き出すことで、観客はあたかも彼らの人生を望遠鏡と顕微鏡の両方で眺めている心地になるのだ。

キム・ヨンジン(全州国際映画祭エグゼクティヴ・プログラマー)

第6回サハリン国際映画祭Competition部門 審査員特別賞受賞
第39回ヨーテボリ映画祭Five Continents部門
第17回全州国際映画祭World Cinemascape: Spectrum部門
ニッポン・コネクション2016(ドイツ)Nippon Cinema部門
2016台北金馬映画祭Windows on Asia部門



3月18日(土)17:00～

『湯を沸かすほどの熱い愛』(カラー／125分)

監督・脚本:中野量太
出演:宮沢りえ、杉咲 花、オダギリジョー、松坂桃李、篠原ゆき子、駿河太郎、伊東 蒼

幸野家は銭湯を営んでいたが、1年前に父が出奔して以来、休業中だ。母の双葉はパート勤めをしながら、学校に行き渋る高校生の娘と二人、明るく暮らしていた。そんなとき、突然の余命宣告。双葉は、「その後」の家族のため、大奮闘する。肝っ玉かあさんを熱演する宮沢りえと頼りない夫を好演するオダギリジョーの組合せも絶妙な、感涙映画。



©2016「湯を沸かすほどの熱い愛」製作委員会

中野量太
(なかの・りょうた)

1973年京都府育ち。日本映画学校の卒業制作『パンザイ人生まっ赤っ赤。』(00年)が高く評価され、初長編『チチを撮りに』(13年)はサハリン国際映画祭グランプリなど多数受賞。

『湯を沸かすほどの熱い愛』は、笑いと涙の両方を引き出す家族ドラマであると同時に、女性の強さを讃える映画だ。大きな愛と痛みを抱えた主人公の双葉を宮沢りえが力強く演じ、人生に前向きで、家族への責任感と愛情に満ちた双葉だからこそ、死の悲しみが昇華される。銭湯の再開は、彼女の愛への感謝の印であるし、作品タイトルを愉快地チャミングに示唆しているのだ。

キム・ジソク(釜山国際映画祭エグゼクティヴ・プログラマー)

第40回モントリオール世界映画祭Focus on World Cinema部門
第21回釜山国際映画祭A Window on Asian Cinema部門
第27回トロント国際映画祭Black Movie映画祭2017(スイス)



3月19日(日)11:00～

『恋人たち』(カラー／140分)

監督・脚本・原作:橋口亮輔
出演:篠原 篤、成嶋瞳子、池田 良、安藤玉恵、リリー・フランキー、光石 研

通り魔殺人によって妻を殺された男、姑とも夫とも心が通わないパート勤めの平凡な主婦、実は同性愛者のエリート弁護士。橋口監督ならではの洞察力によって3人の胸の痛みがヒリヒリと心に迫りながらも、明日への希望を深く感じさせる名作。主演陣にオーディションで選んだ無名俳優を配しながら大ヒット、キネマ旬報1位など数々の賞に輝いた。



©松竹ブロードキャスティング/アーキ・フィルムズ

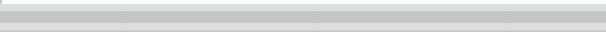
橋口亮輔
(はしぐち・りょうすけ)

1962年長崎県生まれ。93年、第6回PFFスカラシップ作品「二十才の微熱」が大ヒット。『ハッシュ!』(02年)は世界69か国以上の国で公開。『ぐるりのこと。』(08年)も受賞多数。

主役の3人とも見事に役になりきっているが、もっとも目を引くのは成嶋瞳子だ。瞳子を演じる彼女の演技は、笑いを誘うリアリティに満ちている。だが、ドラッグ中毒の愛人に自分の思いのたけを語るとき、彼女の誠実さが溢れ出す。そこで光り出す彼女の気品は、彼女の人生だけではなく、私たち観客の人生をも照らすのだ。『恋人たち』は私が今年見た映画の中で最高の作品だ。

マーク・シンング／The Japan Times

第16回ラス・バルマス・デ・グラン・カナリア国際映画祭(スペイン) 銀賞
第45回ロッテルダム国際映画祭Voices部門
第34回バンクーバー国際映画祭Dragons and Tigers部門
第20回釜山国際映画祭A Window on Asian Cinema部門
第18回ウディネー・ファーイースト映画祭Competition部門



3月19日(日)14:45～

『団地』(カラー／103分)

脚本・監督:阪本順治
出演:藤山直美、岸部一徳、大楠道代、石橋蓮司、斎藤 工

大阪近郊の古ぼけた団地に半年ほど前に越してきた初老夫婦。団地の住民たちは新参者に興味しんしんだ。ある日、夫がひきこもりになり、あらぬ噂が団地内を駆け巡る! 人のおかしみに笑い、仰天のラストに唖然&感動! 阪本監督が『顔』以来16年ぶりに藤山直美とタッグを組み、完全オリジナル脚本でつくりあげた予測不能の団地コメディ。



©2016「団地」製作委員会

阪本順治
(さかもと・じゅんじ)

1958年大阪府生まれ。89年『どついたるねん』で監督デビュー、多数受賞。『顔』(00年)で日本アカデミー賞最優秀監督賞などを受賞。公開待機作として『エルネスト』が控えている。

阪本順治によるファンタスティックな脚本と演出は、ごくありふれた人々の話に予想を超えたぬじれを絶妙なバランスで加え、最終的には心温まるストーリーに帰着する。思いも寄らない急展開が最後のほうに待ち受けていて、観客の頭を少し混乱させるほどではあるが、心から満足できるエンディングだ。

トム・ハント／MOVIE BUZZERS

第19回上海国際映画祭 最優秀女優賞受賞
JAPAN CUTS〜ジャパン・カット!(アメリカ)



3月19日(日)17:45～

『淵に立つ』(カラー／119分)

監督・脚本:深田晃司
出演:浅野忠信、筒井真理子、太賀、三浦貴大、篠川桃音、真広佳奈、古舘寛治

郊外で小さな工場を営む一家のもとに、ひとりの男が現れる。一家は彼の存在によって揺らぎ、崖から突き落とされる。平凡な家族の心の暗闇を繊細に表現、“家族”を問い直す衝撃作。『歓待』(11年)の後日譚をメインに描いた本作は、カンタ映画祭「ある視点」部門審査員賞に輝いた。深田監督は、今、世界が注目する新鋭監督だ。



©2016映画「淵に立つ」製作委員会/COMME DES CINEMAS

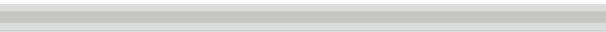
深田晃司
(ふかだ・こうじ)

1980年東京都生まれ。2011年に公開された『歓待』でブチョン国際映画祭最優秀アジア映画賞を受賞。そのほかの作品に『ほとりの朔子』(14年)、『さようなら』(15年)など。

静かに燃え上がる罪と罰の物語。鋭い視点で家族像に迫り、ロベール・ブレッソンや大島渚を彷彿とさせる! 主演俳優たちの演技も見事! 感情がぶつかり合うシーンでは、古舘が胸をえぐるような演技を披露し、特に筒井の演技のセンスは完璧に近く、彼女の内面の奥深さには驚かされる。さらに、圧倒的な存在感を見せている浅野も素晴らしい。

マギー・リー／Variety

第69回カンヌ映画祭「ある視点」部門 審査員賞受賞
第41回トロント国際映画祭Special Presentation部門
第21回釜山国際映画祭A Window on Asian Cinema部門
第57回テッサロニキ国際映画祭Open Horizons部門
第36回ハワイ国際映画祭Spotlight on Japan部門



3月20日(月・祝)11:00～

『FAKE』(カラー／109分)

監督・撮影:森 達也

「現代のベートーベン」ともてはやされながら、ゴーストライター騒動で失墜した作曲家・佐村河内 守。自宅マンションにひきこもって生活する彼と彼を支え続ける献身的な妻に密着したドキュメンタリー。佐村河内のもとにはテレビ局関係者や海外メディアの取材者が頻繁に訪れるが…。はたして真実はどこにあるのか? 観客によって無数の見方が存在する。



©2016「Fake」製作委員会

森 達也
(もり・たつや)

1956年広島県生まれ。オウム真理教信者を被写体にした『A』(98年)がベルリン国際映画祭などで上映。『A2』(02年)は山形国際ドキュメンタリー映画祭特別賞・市民賞受賞。

この映画が気に入った。カメラを回しっぱなしにしているところが素晴らしい。そこに撮られるべきものが捉えられているから。それは森監督がオウム真理教を追った前2作でも取った忍耐のいる手法で、そのおかげで主人公である男について観客はじっくりと観察し考察することができるのだ。マスコミと、真実と報道されていることのギャップについて興味のある人には強力にお薦めする。

ステイヴ・コピアン／UNSEEN FILMS

第21回釜山国際映画祭Wide Angle部門
JAPAN CUTS〜ジャパン・カット!(アメリカ)



3月20日(月・祝)14:15～

『グッド・ストライプス』(カラー／119分)

監督・脚本:岨手由貴子
出演:菊池亜希子、中島 歩、白田あさ美、中村優子、杏子、うじきつよし

ともに28歳の、自由奔放な文化系女子の緑と、優柔不断な草食系おぼっちゃまの真生。交際4年目にして別れ目のマンネリカップルが、まさかの妊娠! 平行線だった2人の心に生じる変化の数々をユーモラスに見つめる、笑えて、心温まるロマンス映画。本作で岨手監督は日本映画製作者協会選出の新人監督賞である第20回新藤兼人賞の金賞を受賞した。



©「グッド・ストライプス」製作委員会

岨手由貴子
(そで・ゆきこ)

1983年長野県生まれ。大学在学中、短編「コスプレイヤー」がPFF(びあフィルムフェスティバル)2005入選、初の長編「マイムマイム」で同映画祭2008の準グランプリ受賞。

彼らがそれぞれの両親や家族と出会う中で初めて知る人間関係の綾が、実にビビッドに映画的に描かれ、独特の表現で観客を引き込む。これはなみなみならぬ才能だと思った。キャスティングや音楽の使い方や時々見せるユーモラスな表現にも才能の芽があふれて居る。今後が期待される監督である。

第20回新藤兼人賞 審査委員長 岡田 裕(アルゴ・ビクターズ)
※審査員講評より抜粋

ニッポン・コネクション2016(ドイツ)Nippon Visions部門
シンガポール日本映画祭CURRENT部門
カメラジャパン・フェスティバル(オランダ)
新日本映画祭(ドイツ)



3月20日(月・祝)17:30～

『オーバー・フェンス』(カラー／112分)

監督:山下敦弘 原作:佐藤泰志
出演:オダギリジョー、蒼井 優、松田翔太、北村有起哉、満島真之介、優香

故郷の函館に戻るも実家には帰らず、職業訓練校に通いながら孤独に生活する男と、キャバクラで働く掴みどころのない美しい女性。心が壊れかけた男女が出会い、衝突し、再生する姿を、静かに軽やかに描く。オダギリジョーと蒼井優の笑顔が心に沁みる。『海炭市叙景』(10年)、『そのみにて光輝く』(14年)に続く、佐藤泰志原作・函館三部作の最終章を飾る。



©2016「オーバー・フェンス」製作委員会

山下敦弘
(やました・のぶひろ)

1976年愛知県生まれ。『天然コケッコー』(07年)で第32回報知映画賞・最優秀監督賞を最年少受賞。そのほか『もらとりあむタマ子』(13年)、『ぼくのおじさん』(16年)など。

『オーバー・フェンス』は、山下敦弘監督の演出によって導き出されたオダギリジョーと蒼井優の卓越した演技、助演陣の貢献、そして山下監督らしいユーモアとリアリズムの絶妙なバランスによって、山下監督の新境地を見せてくれる作品だ。動物を真似する蒼井優の演技は特に必見!

ハリス・ダン／FILM-MOMATIC REVIEWS

第21回釜山国際映画祭A Window on Asian Cinema部門
第36回ハワイ国際映画祭Spotlight on Japan部門
第17回サンディエゴ アジアン フィルム フェスティバルMasters部門

